



# 水の硬度について

硬度とは水中のカルシウムやマグネシウムの量に対応する炭酸カルシウムに換算したものです。硬度の高い(硬水)、低い(軟水)は水の味に大きく影響するといわれています。

また、硬水軟水は食文化にも大きく影響しているようです。お茶や煮物、汁物などには軟水が好まれています。軟水は溶解しているミネラル成分が少ないので、お茶や煮物の成分が溶出して風味を出す、いわば「だし」を引き出す料理に適しています。一方、硬水は「だし」を封じ込める料理や肉汁、ほうれん草のアク抜きなどに適しています。また、硬水は米のでんぷんを糖化する麹菌の働きを活発にするので、沖縄の泡盛の仕込みにも適しています。

### <WHO 飲料水水質ガイドラインによる硬度の分類>

軟	水	0 ~ 60 mg/ l
中程度の軟水		60 ~ 120 mg/ l
硬	水	120 ~ 180 mg/ l
極度な硬水		180 mg/ l 以上

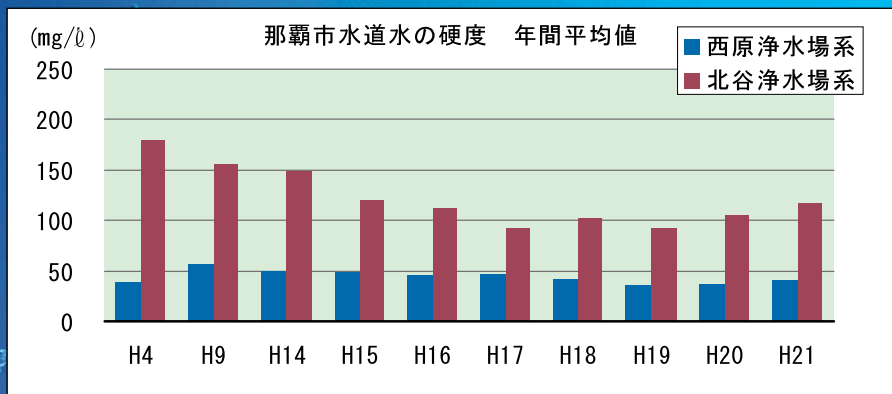


那覇市の水道水は、沖縄県企業局の西原浄水場と北谷浄水場から送水され、調整池や配水池を経て各家庭や学校等へと給水されています。西原浄水場系(西原系)と北谷浄水場系(北谷系)の水質的な大きな違いは北谷系の硬度が西原系に比べて高いということです。

これは西原系が福地ダム等の北部ダム群を水源としているのに対し、北谷系は北部の河川水に加えて中部の石灰岩地層の地下水や河川水も一部水源としていることによるものです。

沖縄県企業局では、平成15年6月、北谷浄水場内に硬度低減化施設を導入し、その低減化に努め、中程度の軟水の硬度を維持しています。

ちなみに硬度の水道水質基準は、300mg/l(1リットル中300ミリグラム)以下となっています。



**【お問い合わせ】**  
配水課：941-7806